

## 韓国の歴史教科書

上山由里香

■講演者……上山由里香（成均館大学東アジア学科博士課程修了）

■司 会……豊島悠里（本学アジア言語学科准教授）

### 一．はじめに

韓国では、現在どのような歴史教科書を使い、どのような歴史教育を行っているのでしょうか。そして、そこにはどのような問題が潜んでいるのでしょうか。

昨今の日本と韓国との間には歴史認識に関する問題が慢性的に存在し、それら諸問題が主として日本の歴史教育や歴史教科書をめぐって展開されているということは周知の事実だと思えます。そのため、日韓間で「歴史教育」や「歴史教科書」というキーワードが横たわる時、まず問題視される対象は日本の実態であり、その視線が韓国にまで及ぶことはこれまで多くありませんでした。それは人々の関心が韓国に向けられていなかったと推測することもできますが、より現実的

に考えるならば、韓国の歴史教育や歴史教科書に接するための手段があまりにも限定的だったということもひとつ理由としてあげることができるでしょう。

よって、本講演では、「歴史教育」や「歴史教科書」というキーワードを据えつつも、その焦点を韓国に向け、日本では広く知られていない、植民地体制解放以降現在に至るまでの韓国の歴史教科書の歴史について概観します。韓国の歴史教科書の変遷を辿るなかで、その都度どのような社会状況の下で教育環境が整備され、韓国の人々がどのような状況の中で歴史教育に接してきたのか、その一面を確認することをその目的とします。さらに、その時々で韓国国内で発生した歴史教育及び歴史教科書問題をめぐる諸問題にも触れながら、そのような諸問題の延長線上に今後韓国の歴史教育及び歴史教科書において発生しうる諸問題についても検討してみたいと思います。



上山由里香氏



司会の豊島悠里先生

## 二. 現在の韓国の歴史教科書とその構成要素

現在韓国では、国定教科書、検定教科書、認定教科書という三種類の教科書が使用されています。国定教科書は、教育部が著作権を持つ教科書であり、教育部で編纂し、ひとつの科目当たり一種類の教科書を教育部が委託した各出版社が販売を担当しています。検定教科書は、教育部長官の検定を受けた教科書のことであり、民間の出版社が著作した教科書を国家機関（韓国教育課程評価院、国史編纂委員会）が検定したものです。認定教科書は、各市・道の教育官の認定を受けた教科用図書であり、民間の出版社が著作した図書を国家機関

が審査、認定したものです。歴史関連の教科書は、〈表1〉の通り、小学校以外はすべて検定教科書です。

どの教科がどのような種類の教科書として編纂されるかは、教科書を構成する諸要素と深く関係しています。その構成要素を概観してみると、次の五つの要素をあげることができま

す。

第一は、制度的基準です。教育全般及び教科書編纂の基本的な枠組みを規定するものであり、大韓民国憲法、教育法、教育課程（教育目標を達成するための教育内容などを体系的に編成したもの）、教科書編纂に関わる諸制度などです。

【表 1】小中高校別、歴史教育関連科目の教科書種別。2015年3月現在

	科目	対象	教科書	教科書の種類
小学校	社会	五、六年生	『社会』	国定
中学校	歴史	二、三年生	『歴史①』、『歴史②』	検定
高等学校	韓国史	一年生	『韓国史』	検定
	世界史	二、三年生	『世界史』	検定
	東アジア史		『東アジア史』	検定

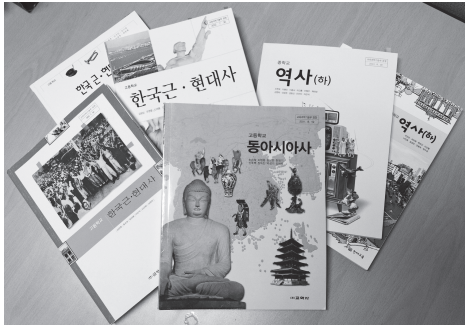
第二は、政策決定者や各分野の研究者などです。教育政策の決定に直接的に関与する人々や、各分野において専門的な知識を持つている人々がどのように関わるかも重要な要素となります。歴史教育においては、一個人の思考や歴史認識や歴史観などが影響し、歴史教科書の叙述に反映されることもあり得るのです。

第三は、教科書叙述です。これは教科書内容を直接構成する要素であり、その内容構成と不可分の関係にあります。国家レベルで使用されている教科書という観点から、対外的に見てその国の一定の研究成果及び歴史認識を確認できるツールでもあるため、時に教科書叙述が歴史認識問題へと発展することもあ

第四は、政治的な要因です。韓国では特に大統領が代わるとに内外の政治・経済政策が大きく変化し、その波及効果が教育政策にまで及んでいます。朴正熙大統領の時、新たに制定された第三次教育課程（一九七三年二月）で、歴史教育に大きく関わる事項として国史科目の独立化が提案され、国史の必須化、国史教科書の国定化が定められました。これは政治的な方針が反映されたものであり、第六次教育課程（一九九二～一九九七年）頃まで影響を及ぼします。

第五は、社会的な欲求です。これは昨今、特に歴史教科書で特徴的に表れている要素と言えます。政治史を歴史叙述の主軸としながらも、文化史、人物史、民衆の歴史などさまざまな側面から歴史を捉えることの重要性が指摘されています。中心にある主流の歴史事象のみをその立場からのみ描くのではなく、周辺の歴史をいかに歴史教育や歴史教科書にまで反映させるかが、韓国国内でも問題提起されつつある要素です。第六次教育課程まで国史教科書が国定だったものが、第七次教育課程（一九九七年十二月）を機に検定へと移行したのも、そのような時代の潮流に合った教科書の在り方が反映された動きとも考えられます。

以上のように、前述した要素が主たる要素となり、それぞれが共振することによって、現代の教科書は構成されていると言えるでしょう。



2000年以降に出版された韓国の歴史教科書

### 三、歴史教育・歴史教科書の変遷

では、このような韓国の歴史教育や歴史教科書はどのような変遷を経て、現在に至ったのでしょうか。ここでは特に現在の歴史教育・歴史教科書と直接的な始点ともいえる時期を中心に概観してみたいと思います。

一九四五年八月十五日、朝鮮半島は日本の植民地支配から解放されました。まもなく朝鮮半島は、北緯三八度線を境界として以北をソ連が、以南をアメリカが占領するという分割占領の時期に入ります。ソ連とアメリカによる占領期を終えると同時に南北ではそれぞれ政府を樹立し、分断状態が継続され、朝鮮戦争を経ることにより、その分断状態が常態化していくこととなります。

韓国において植民地支配からの解放以降、教育の政策的側面において現在に繋がる直接的な基盤を確立できたのは、解放を迎えてから約九年後の一九五四年です。そのような状況の中で現実的な課題として取り組まなければならなかったことが、①行政組織の改編、②教育課程の設置、③学校の開校、④人材の育成(教師)などでした。

歴史教育においては、植民地支配からの教育の連続性を断つという意味でも、解放直後から「国史を回復する」という目的で、早急に積極的な対応が行われてきました。植民地支配下では、当然のことながら教育もその支配下に置かれてい

たため、公的な教育現場において朝鮮の歴史を教え、学ぶ環境はありませんでした。そのため、国史教育環境を整備する第一歩として、朝鮮の歴史を教え、学ぶことができる朝鮮の言葉で書かれた教材を編纂する作業が行われたのです。この時、教材を編纂する重要性は、単に歴史を学ぶ学生のためだけに実施されたのではなく、当時歴史を教えることができる教師自体も不足していたため、教師育成のための教材としても有効活用されたのです。

植民地支配からの解放以降、一九五四年に第一次教育課程の制定に至るまで、朝鮮半島情勢は混乱状態にあり、教育施策においても常に応急処置的な対応を余儀なくされました。当初は、日本の植民地支配から解放されたという現実が目前にあったため、植民地期の残滓をいかに取り除くか、そして自らの民族的アイデンティティ、言語や歴史を回復させることに重点が置かれていました。しかし、結果として迎えた分断状態の常態化という現実が、むしろその後の韓国における主たる方向性を示すひとつの指標となっていくます。

つまり、国家の方針や教育政策を方向付ける際、分断状態の常態化と不可分の関係にある、対北を意識する指標がそこに入ってくることになるのです。第一次教育課程以降、特に反共教育というものが教育全般における基本方針とされた事実からもその影響を読み取ることはできるでしょう。また、

後述する韓国で起こった歴史教育・歴史教科書問題とも密接に関わってきます。

#### 四、韓国における歴史教育・歴史教科書問題

二〇〇〇年代に入り、韓国国内では特定の歴史教科書(高等学校)をめぐる問題が発生しました。ここでは三つの歴史教科書問題を中心に概略的に説明します。

##### ①金星出版社『韓国近現代史』教科書問題

第七次教育課程により、高校では「韓国近・現代史」科目が設置され、検定教科書『韓国近・現代史』が編纂されました。二〇〇二年七月、編纂された教科書の検定結果が発表されました。この時、出版社の出版社が教科書を編纂し検定されましたが、その中で金星出版社から出版された教科書がその後主に話題の中心となりました。金星出版社の教科書をその話題の中心にしたのは、保守メディアやハンナラ党の一部の議員、そしてニューライト系団体「教科書フォーラム」でした。それは、「金星出版社版教科書が親北、反米、反財閥的な内容を強調している」という理由からです。

そのような出来事から端を発し、その後二つの出来事が発生します。ひとつは教育科学技術部(以下、教科部とする。)がハンナラ党の一部の議員やニューライト系系列団体の影響を

受けて、金星出版社版を含む『韓国近・現代史』教科書六種に対し、再度不当な修正を指示するという行政措置を行ったことです。もうひとつは、その過程で教科部が金星出版社に対して要請した『韓国近・現代史』の修正命令に対して、出版社が執筆者の同意なく修正した教科書(修正本)を教科部に提出するという、教科書執筆者の著作権が侵害されるという事態が生じたことです。

金星出版社『韓国近現代史』教科書執筆者陣は、前者は教科部を相手に「韓国近現代史教科書修正指示の不当性に対する行政訴訟」を提起(二〇〇九年二月)し、後者は出版社を相手に「著作権侵害停止請求訴訟」を提起(二〇〇九年一月)しました。結果、前者は原告勝訴、後者は原告敗訴となり、この一連の出来事はこれらの判決をもって終息したかに思われました。しかし、この時から韓国の歴史学界に、ある程度の規模をもって台頭してきたニューライト勢力がその後さらに力を発展させて歴史教育に侵入してくるようになります。

## ② 教学社『韓国史』教科書

ニューライトとは、伝統的な保守勢力(ライト)に新たなテキストを加えた勢力のことを指します。そのテキストとは、植民地近代化論や大韓民国成功史などを提唱する計量経済学史観によって歴史を認識するような考え方を指し、そのよう

な考えの人々が集まって作られた団体が、前述した「教科書フォーラム」です。

そして、そのようなニューライト系の人々はいくつかの学術団体も組織するようになり、その過程で韓国の歴史教科書にも深く関与して行くようになります。金星出版社版の教科書をめぐる諸問題が発生した際には、ニューライト勢力は問題提起するに留まっていたが、二〇一三年になると直接彼らが教科書執筆するというかたちで、歴史教育に直接影響を及ぼそうとしました。

二〇一三年八月三〇日、『韓国史』教科書八種が検定通過し、その中にニューライト系の韓国現代史学会が執筆した教学社版『韓国史』教科書も含まれていました。すると、歴史学術団体などは、教学社版『韓国史』教科書の歴史叙述の誤謬を指摘する公開説明会などを実施しました。そのような動きに反応して、教育部は検定通過したすべての教科書に対し、修正・補完勧告事項を発表しました。教学社以外の教科書も修正を余儀なくされ、修正案をもって当初検定通過した教科書はすべて最終的に教科書として承認されることになりました。しかし、韓国史関連団体からは、修正後の教学社版教科書にも依然として多くの誤謬が存在していると指摘されつつも、教科書採択の時期を迎えなくてはならず、この教学社版教科書が実際に教育現場で使用される恐れがあるという現実

が見えてきました。

この時検定通過した教科書は、二〇一四年三月一日より、全国の高等学校で使用され始めましたが、教学社版『韓国史』教科書はゼロ採択という結果になりました。ゼロ採択という結果で、一時的にその勢いを止めることはできませんでした。しかし、現在、また別のかたちでニューライト勢力は新たな歩みを始めています。

### ③ 国史教科書国定化論争

二〇一四年に入り、セヌリ党代表、院内代表、議員などが立て続けに、歴史教科書の国定化を支持する発言をし始めました。それは、ニューライト勢力に助力を得たかたちで表面化しつつある発言という背景とも捉えることができるのであり、韓国国内の歴史学者のほとんどは国定教科書への反対を表明しています。また、歴史教科書を使って直接学生に授業を行う立場にある高校の歴史教師も、国史教科書の国定化に反対する声を強めています。

国定化論争は現在進行形の問題であり、今後韓国の国史教科書がどのように変化していくのか、その動向が非常に気になるところです。

## 五、残された課題

これまで日本での歴史教育・歴史教科書問題とは少し性格の異なる、韓国における歴史教科書をめぐる問題を見てきました。最後に、今後韓国の歴史教育・歴史教科書において争点となり得る歴史事象を検討事項として提案したいと思えます。

現代に起こった戦争に対する認識です。特に韓国が直接的に関わった戦争として朝鮮戦争やベトナム戦争をあげることができません。これらの戦争は時間の経過とともに、過去の事実が資料の公開や証言、記録などを通して明らかになってきています。

例えば、朝鮮戦争における民間人虐殺に関しては、いくつかの歴史教科書でもその叙述に含まれるようになってきています。しかし、ベトナム戦争に関する史実に関しては、派兵、参戦の事実が叙述されていても、民間人虐殺、枯葉剤被害(後遺症)などの史実はまだ叙述内容が教科書ごと大きく異なっています。

前述した教科書を構成する諸要素が変化することにより、このような史実が今後どのように叙述されていくのか、注目していきたい側面でもあります。さらに、韓国自ら関わった戦争を自国史のなかでいかに認識していくのかということも、今後韓国の歴史教育・歴史教科書の中で問い続けなければ



質疑応答では、参加者からたくさんの質問が寄せられた

ばならない問題ではないでしょうか。

現在の韓国の歴史教科書の現状、そしてそのような歴史教科書がどのような要素によって構成されているのか。また、そのような歴史教科書はどのような変遷を経て現在に至り、そのような変遷の延長線上に発生した歴史教育及び歴史教科書をめぐる問題には、どのようなものが存在しているのかを概観してみました。

自身の力不足で、限られた時間内で大きな枠組みだけを説明し、それぞれの内容により深く接近できなかつた点が非常に心残りです。しかし、これを機に、新たな角度から韓国に

目を向けたり、韓国の歴史教育・歴史教科書を理解するひとつのきっかけとなれば幸いです。